

北斗通信

エバーオンワード(限りなき前進)

藤岡市立北中学校校長室通信

平成22年5月12日(水)

NO. 9(通算71)

教育目標を考える② 目指す学校像

前号では、学校教育目標が文部科学省や教育委員会の方針に沿って設定されていることを記述させていただきました。今回は、教育目標を達成するために、どんな学校を目指していくかについて、記述したいと思います。本校では、以下の三つの「目指す学校像」を設定しています。



(1)清潔で潤いのある学校

校舎内外が隅々まで整理され、四季の草花が咲き乱れている学校。身なりがきちんとしていて、挨拶が徹底している学校。思いやりと情操を重視する学校。生徒の作品が整然と掲示されている学校を目指します。



(2)敬愛と協力にあふれた、秩序ある学校

思いやりの言葉が飛び交い、時間が守られる学校。規律と礼儀が大切にされ、ボランティア活動の活発な学校を目指します。

(3)明るく、活気のある学校

一人一人が大切にされ、真剣に学習に取り組む学校。歌声が響き渡り、スポーツや文化活動の盛んな学校。生徒と教師がともに汗を流し活動し、学びあう学校を目指します。

ぜひこんな学校にするために、皆様のご協力をよろしくお願いします。



ことわざから学ぶ!?

「『あとで』とお化けは出たことがない」という言葉をご存知でしょうか。「今できないことは何年たってもできない」といった意味に使われているようです。「あとです」は、「やりません」ということなのでしょう。どこかの国の政界用語と同じなんですね。

現在、家庭訪問中で、授業時間も5時間、部活動も早く終了しています。中間テストも20日に迫っています。本来ならばやるべきことをしっかりやらなければならないはずなのですが。

近くのゲームセンターなどを巡視して、生徒を見かけます。話を聞くと決まって、「あとで勉強しようと思っていました」と言います。「帰宅したらまず勉強しよう」の約束を破って遊んでいる生徒が、あとで勉強するとは思いません。まさに「『あとで』とお化けは出たことがない」です。物事を後に回そうとするのは、計画性のなさ、無精だからだといわれます。今やれないことは、十年たってもやれない、と知るべきなんです。



3年生は目前に進路決定が迫っています。2,3年生も毎日の努力の積み重ねが自分の夢を実現する早道です。嫌なこと、困難なことを先延ばしにして、土壇場になってあわてても結果は悲惨なものになってしまいます。「あとで」ではなく、計画的に頑張れるようご指導ください。

さて、私たち大人も「あとで」という言葉をよく使います。もちろん必要な「あとで」もありますが、なるべくなら使わないで済ませたいものです。確実に子ども達は、大人達の「あとで」を学んでいるのですから。反省!!

一、青年は心を離すな	一、少年は目を離すな	一、幼児は手を離すな	一、乳児は肌を離すな	子育て四訓
------------	------------	------------	------------	-------

有名な子育て四訓です。中学生は、少年期? だとしたら「少年は、友達との付き合いによって社会性が育つ。

ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやる。でも、いろいろな危険があるので、目を離してはいけません。遠くから子どもを見守り、何かあったら飛んでいくことが大切。青年期? だとしたら「青年は、自立し、自分の生きがい、進路を歩む。でも、心だけは離してはいけません。」

子育ての最終責任は、親にあるという基本を忘れてはいけませんね。よ〜く考え、実践を!!